

活性化委員会ナイトセッション

テーマ

「現場×教育×未来：フィールドからラボで紡ぐ水産海洋学の知と使命」

日時：：2025 年 10 月 31 日 17：30-19：00

開催場所：福井県国際交流会館（福井市宝永 3-1-1）

参加者：55 名

主催：水産海洋学会 活性化委員会

開催趣旨

活性化委員会は、水産海洋学会の活性化を目的とし、会員間の交流促進と情報共有の場を提供する活動を展開している。本ナイトセッションでは、長年にわたり海洋環境工学および資源生物学の分野から水産海洋学会に多大な貢献をなされた福井県立大学海洋生物資源学部の瀬戸雅文先生と富永修先生をお招きする。両先生には、豊富な研究・教育経験を通じて蓄積された実践的な知見をご紹介いただくとともに、次世代の研究者に対する期待や提言についてお話しいただく。なお、両先生は大学での教育・研究活動に加え、北海道立中央水産試験場（当時）での勤務経験もお持ちであり、研究現場の実情にも精通されている。本ナイトセッションが、参加者の皆様にとって有意義な学びの機会となり、水産海洋学の更なる発展と学会における次世代研究者の育成に寄与することを期待する。

プログラム

1. 趣旨説明
2. 話題提供
3. 総合討論
4. 閉会挨拶



話題提供者

福井県立大学 瀬戸 雅文 先生

タイトル：「多様な主体が連携した漁場づくりに向けて」

概要：漁場環境の変動性や、生態系の複雑性に加えて、漁業者減少や高齢化、市民の環境保全に対する意識の高揚など、漁場環境を取り巻く様々な変化を踏まえて、漁業者や行政・企業、研究者や市民が、漁場づくりの意義や、事業目標の達成度を実感し共有しながら協働した事例を紹介し、持続可能な漁場づくりを模索する。



福井県立大学 富永 修 先生

タイトル：「知らない事との出会いを大切に！」 研究者生活を振り返って

概要：私は地方水試に7年間勤めた後、大学に移りました。新しい組織での研究生活は、戸惑いもありましたが、多くの楽しみを味わうことができました。また、新たな研究を始める時に、異なる分野の研究者と知り合い、「目からうろこ」ということも経験しました。来年退職しますが、知らないことに会うことの大切さについて、皆さんと共有できればと思います。

